氷河時代から縄文時代へ：気候と暮らしの変化

気候が暖かくなると、日本列島の人々の暮らしはなぜ変わったのか

氷河時代（旧石器時代）





ナウマンゾウ・オオツノジカなどの大型の動物をとる



打製石器（石を打ち欠いてつくる）をつけたやり



動物を追って移動しながらくらす。簡単な小屋

1 気温が上がる

寒い時代が終わり、暖かくなる

2 海面が上がる

氷がとけて海が広がり、陸続きだった所が海になる

長い時間をかけて変わった

3 森と食べ物が変わる

木の実のなる森が広がる

4 道具が変わる

弓矢でとり、土器で煮る

5 住まいが変わる

食べ物が近くにあり、定住

縄文時代





木の実（どんぐり・くり）、魚や貝、シカ・イノシシなど



弓矢、土器（煮たき・保存）、磨製石器（石をみがいてつくる）



たて穴住居をつくり、同じ所に住みつく（定住）。貝塚も残る

※ 模式図。地図は今の海岸線に、当時の陸地の広がりを大まかに重ねた。時期や陸続きの範囲には諸説がある。